

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 縁

代表者・役職名 氏名 神尾久美子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

真如苑 子ども食堂 支援助成金

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

月・火・水曜日 週3日 15時から19時まで地域の子どもたち、ひとり親世帯や不登校児やネグレクト、貧困による特殊な子どもたちの居場所を開いております。

無料食事提供、無料学習支援、お楽しみ会、季節の行事等の機会を作り、子ども達と関わっております。子どもたちを人として育て、子どもから大人への成長を育む、家でも学校でもない子ども第三の居場所。ふたつめのおうち、親の代わりとなるように努めております。

毎月第1火曜日・子どものみの子ども食堂を開催。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

子どもたちの居場所:週3日 各日 10人前後の利用者
子ども食堂:月1回 20人参加

不登校の子どもたちが開所日には休まず継続的に来ております。

ひとりで家に居ることなく、子どもたちの居場所にてなっている。

日々通いだす中で、子ども同士が家族に成り出だしている。

行政とつながり、子育て支援課、スクールソーシャルワーカー、自治会との連携がとれ、支援会議など学校と繋がることができ、担任と情報共有できた。

また、自治会長、子ども会との協力でイベントを開催し、地域の交流も深まり、知名度があがってきて、居場所を利用する子どもたちが増えてきた。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

・子ども食堂は多くの子どもたちが参加してくれるが、今後は習い事などで、参加できない子どもたちにも配慮したい。

・居場所には来るが学校には行けていない。

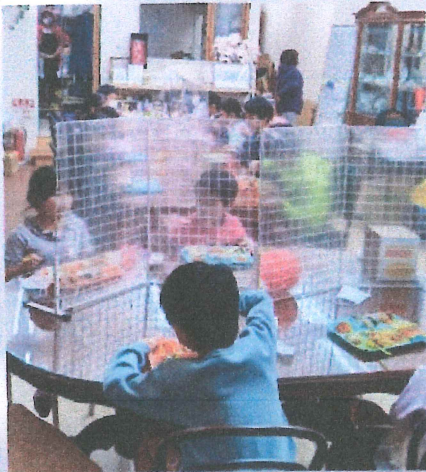
居場所があるから学校に来ないのではないかと学校側は懸念されていたが、学校、ソーシャルワーカー様との連携をとり、共有を深め活動していききたい。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

ONEとぴーす

毎月第1火曜日に
子どもだけの
「子ども食堂」を
開いています



色々な方から
ご寄付をいただき
ました



当日は多くの
ボランティアの方
にお手伝いいた
だきステキな時
間をつくること
ができました



みんなのわが家の利用者
さんも子ども食堂の
宣伝をしてください



2階フリースペース内での様子

TVをみたり



お友達と遊んだり😊



勉強したい！



本を読んだり
ゲームしたい



ダンスをしたい



食後はフリースペースで好きなことをして過ごしました！

